



燦々と燃ゆる陽



本別高校HP QRコード

〒089-3308

中川郡本別町弥生町49番地の2

TEL 0156-22-2052

発行日：令和5年3月3日

オーストラリア研修代替事業 (国内英語研修:ヒルトンニセコビレッジ:3月3日~5日)

2月27日(月)19:00から、本別町体育館で標記の説明会が開催されました。冒頭のあいさつで本別高校の教育を考える会 山根会長の挨拶の後、旅程の説明・質疑応答が行われました。なお、本別町の英語教育の集大成となるこの研修には、2年生希望者10名が参加します。

この研修の目的は、英語による語学研修や交流を通じて、海外への関心と英語に対する学習意欲の向上を図り、自己の将来につなげるためのきっかけづくりとするものです。研修内容として、1日目は、ネイティブの講師6名交えたスピーキングアクティビティと英語でのテーブルマナー、2日目は、外国人のインストラクターとのスキー体験と最終日の発表準備、3日目は、研修成果を英語で発表となっています。研修に参加する生徒の皆さんは、大いに研修を楽しみ、コミュニケーション力を磨いてきてほしいと思います。【以下の記載は、次年度に向けた在校生へのメッセージです】

次年度、参加対象となった場合は、「英語は不得意だから」「英語を話せないから」という理由で不参加ではなく、多少英語が不得意でも身振り手振りでのコミュニケーションで挑戦してみるという姿勢で参加してほしい。何事にも挑戦し、経験し、見聞を広げてほしい。国内外問わず多くの人と触れ合い、コミュニケーションを取ることで、違った世界が見れるはず。英語が不得意、又は英語が話せない生徒の皆さんこそ、是非、参加すべき研修です。 なお、今年度、十勝管内の高校でこのような研修を行っている学校はありません。



【部活動・吹奏楽部】…高音研ふれあいコンサート

こんにちは。少人数でも本番の多い吹奏楽部です。

2月3日(土)、十勝管内の高等学校の音楽の先生方による「高等学校音楽教育研究会(高音研)の研究演奏会「ふれあいコンサート」が足寄町にて開催されました。演奏会の最後に行われた合唱および吹奏楽のステージで、足寄高校吹奏楽部の皆さんとともに先生方と共演させていただきました。仕事の合間を縫って実技研修をされている先生方の素晴らしい演奏に加えていただき、「良い音」「良い演奏」を間近で感じる事ができた貴重な機会になりました。写真は、足寄高校吹奏楽部の皆さんと参加された先生方とともに。次の演奏は3月1日卒業式。2名+ピアノのたった3名で心を込めて演奏し、先輩方を送り出します。



【部活動・弓道部】…初射会

2月25日(土)、本別弓道連盟主催の初射会に参加してきました。午前中は連盟の方にたくさんご指導いただき、午後は和気あいあいと風船割りや金的・銀的でミニゲーム今年度の大会はすべて保護者の方に観戦していただくことができず、なかなか子どもたちが弓を引いている姿をお見せすることはできませんでしたが、今回は一般の方も参加OKということで、たくさんの保護者の方にもご参加いただきました。今回は、和気あいあいとした中で弓を引いたので、次は試合のような緊張感で引いている姿をお見せできればと思います。企画していただきました本別弓道連盟のみなさま、お忙しい中ご参加いただきました保護者の皆様ありがとうございました。



令和4年度 本別高校 卒業式式辞 (一部省略)

本日、ここに、令和四年度北海道本別高等学校卒業証書授与式を挙げるに当たり、本別町長佐々木基裕様をはじめ保護者の皆様方の御臨席を賜りましたことに、心から厚くお礼申し上げます。ただいま、卒業証書を授与された二十七名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、3年間、学習、学校行事、部活動に、日々主体的に取り組み、知性と感性を磨き、心身を鍛えてきました。また、十勝の豊かな風土の中で、保護者の方々の愛情と地域の温かいご支援をいただき、豊かな人間性を身に付けてきました。このように立派に成長した皆さんを卒業生として送り出せることは、本校の誇りです。保護者の皆様方には、お子様の晴れの卒業に、心からお祝いを申し上げますとともに、三年間、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。さて、3年間を振り返ると、コロナウィルス感染症の拡大、生徒数減少による間口減など、本校を取り巻く環境が大きく変化する中で、皆さんの思い描く高校生活ではなかったのだと思います。そのような制限のある学校生活においても、仲間と切磋琢磨して学び、学年の垣根を越えた学校祭や体育大会、見聞を広めた見学旅行など、多くの行事に、前向きに取り組む姿に、感銘を受けました。また、少人数や合同チームでの部活動・同好会ではリーダーシップを発揮し後輩の手本となったり、さらに、吹奏楽部や弓道部、個人競技での全道大会出場など、高校だけでなく、地域の方々に、町に明るい話題をもたらしてくれました。探究活動では、活動を振り返る論文執筆にも、初めて挑戦しました。感想の中では、「多くの大人と対話や議論を通して1年前より成長できた自分がある。」「行き詰まったり、困ったときは、一人で悩まずに仲間や大人に頼ってみるとよい。」など、多くの経験を積み重ねていくことで、当事者意識を持ち、活動毎に成長していく姿は頼もしくもありました。このように、皆さんは、本校の校訓「創意実践」のもと、高い目標を持ち、日々、挑戦してくれました。3年間、コロナ禍での苦労や困難を乗り越えられたのは、皆さんが前向きに諦めず、「続ける(継続)」ことができたからです。諦めず「続ける(継続)」ことで、道が拓かれるのです。Instagramのフォロワーが1年間で20万人の支持を得た方の「続ける(継続)」ことができる人について、次のように綴っています。(略)続けた人に明るい未来はやってくる。「続ける」ことで、道が拓かれる。迷わず前に進んでください。その先には、きらめく明日が待っています。しかし、生きていく中では、時に、心が疲れてしまうときがあります。そんな時には、母校である本別高校に足を運んでみてください。この学舎に、皆さんの青春時代のあたたかな思い出が、刻まれています。新しい明日への、一歩となる力を与えてくれるでしょう。皆さんの人生が、生きがいのある豊かなものになることを心から願っています。在校生は、皆さんの思いを受け継ぎながら、新たな本別高校を創造し、引き継いでくれるでしょう。皆さんには、今後の本別高校と後輩たちの活躍を、温かく見守ってほしいと思います。結びになりますが、卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、これからの健闘を大いに期待するとともに、御臨席いただいた皆様方の益々のご健勝を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和5年3月1日

北海道本別高等学校長 松田素寛